

司会 手を司会 司会 司会 ○
 が生の手生ピ不挙生壁のの生すシの打司にピ生しピ^x のピ拍台ピロ道す生大のたプ体△
 、徒先を徒エ貞げ、際6先徒！ヨ先ち会見エ徒てエ 笑エ手をエ、芸る徒道先ち椅育△
 ピ会生挙会口腐て立に年生た⁺ ।生きのせ口たい口^x み口は置口登のとた芸生が子館小
 エの⁻げの、れいちス生⁻ち の⁻れ先る、ちる、で、どく、場道、ちシ⁻座がに学
 口6はて6手てた上タにで、おピる生[。]台[。]さ[。]ジ台ん[。]陽す具音、ヨでつ置は校
 、年いい年をい生がンおは一
 ジ生[。]た生挙る徒るバ手今斎
 エ、静生[、]げ[。]た[。]イ伝日に
 スピか徒舞て^ち しいは手
 チエにた台い[「] てし[、]を
 ヤ口しちにた^え いて学挙
 しにてご上生^ー たも生げ
 で近下ねが徒[「] 生ら代る[。]
 生づきてつた[。] 徒い表[。]
 徒いいいてち
 会て⁻ るくを
 のい[。] る見
 6く[。] る
 。
 ！
 』

の⁻れ先る、ちる、で、どく、場道、ちシ⁻座がに学
 手エ[。]司か見^ま^x ヤかど 気るが楽拍^ーはてか緑・
 伝口舞舞会ら入^ぎ グらん に[。]乗が手でおいれ色体
 いき台台のリつ^ま リボと 登[。]つ鳴すす次るての育
 をんをに先ンて^な ン[।]止 場[。]てりる！は[。]おシ館
 しは降登生^グい^ジ グルん[。]始三^い 始[。]り^ー、り^ー
 いて[、]りりにをる^ヤ ををで[、] 舞[。]メイ[、]ト[。]
 ほ生[、]手取[。] グラグ[。]始三^い 全[。]が[。]
 し徒[。]ピ招り[。] ゲリング[。]取[。] 舞[。]イン[。]イベント[。]
 いの[。]エキ[、] う[。] 満[。] 全[。]が[。]
 で皆[。]口す生[。] グ[。] 面[。] 校敷[。]
 そさ[。]かる徒[。] を披露[。] 中[。] 生か[。]
 うん[。]ら[。]た[。] 满面[。] 徒れ[。]
 年う会[。] でに[。] 耳[。] ち[。] 中[。] と教[。]
 ！[。] ！[。] 中[。] 哉[。]

教
頭
先
生

ピた先先ピたうピエフシンと少にシ同
エ°生生エちとエロでヨでさし舞ヨ・
口凄「たロ「しロのい「いづ離台」裏
、い今ち、ピて、方たをる、れのを門
笑大日、先エい荷に先開
つ盛はピ生口る物向生催
て況、エたき時をかたし
いであ口ちん、積つちて
る「りのの！先みて、い
。が前方「生終行ピた
とにを、たえく工人
うや見、ち、°口た
ごつる、走運、をち
ぎて、°つ転、發に
い来、て席、見お
まで、來に、し礼
し、て乗、、を
、ろ、ビ言

○
先
生

生ロシ「生同 去大ピ×先生ピ生よらピい司い年
徒さヨし徒・ つ道エ 生徒エ徒う降エる会る生
たん「つた教 茹芸口 、を口たにりロ°の生を
ちにをかち室 いの、×生選、ち指さ、先徒拒
、も披り、 く道生 徒ぶ司、示せ生 生の否
思送露書シ °具徒× をよ会再す、徒 中し
いりしいヨ 満をた 選うのびる生会 生か、
思までて、 面乗ち ぶに先一°徒の 徒ら司
スでどい いすぐ下の のせか °指生齊 た6 会選会
にピをた のかれさ感 笑たら 示にに ち年 のべの
大工積人 感らたい想 み台大 すジ手 に生 6と先
道口みた 想「皆ねを ををき 再を 再を 年指生
芸、込ち を、さ、°書 見押な °ス拳 び押 生示に
のメン、 記 んこい せし拍 チげ 手し 、す手
荷イでト 入 やのて てて手 ヤる。 戸るを
物クいら す 、紙い い舞を ー。 拳舞 惑。 拳
をはるッ ピはる る台受 で、 げ台 つ。 げ
積落。ク 。エ、。 °をけ、 て、 るか

○ 教頭

みピ先生
を工生生
見口「た
せ、メち
、何イ、
車もク戸
に言は惑
乗わ落つ
りずとて
込、さい
んたなる
でだい。
走たん
りだで
去満す
る面か
。の？
笑「

○

ス笑ピッ進事笑ピとんにそめをピを大ピ持そ量イピ大小
タ顔エフ行をみエ書ではのる読エ不道エちののクエ道劇
ツでロ「の書を口かす「紙」。み口氣芸口が紙紙姿口芸場
フス、「ピスく見「れか『の
、タ紙エタ。せそて？ピ『
ピッとロツ「のいエビ
エフボさフ持紙る笑口エ
ロの「ん、つを。わさ口
と元ル、控て見なんさ
一にペ準備て見いはん
緒歩ン備室た、時いへ
にいをおにボさはつの
出て地願や「らなも質
て行面いつルない笑問
行くにしてペるんつコ
く。置ま来ン満でて「手ん
。きすてで面すいナ
「、返のかる「
?』

○ スタ

ピ拍道ピシ舞観同
エ手工具ヨ台客・
口はを口「にた舞
、止台「のち台
台むに陽とめ、
を。乗氣書く拍
舞せなかり手
、音れにを
の満樂てはす
面とい、る
の共る。
笑に。ピ
み、エ
で大口の
登き場な
す箱大脱
ると出
。

司会 司会 司会

と口ピ小 ピロス観ピ台舞者がに残者ピとを選願者ピ重袖頭うピのピ渡らピ 3 司し伝
書のエ劇 エツタ客エの台「、刺り「エ中刺ばい」エにかだにエ果エす、エ人会ていこ
か返口場 ロクツたロ底上キなすのでロますれしでロロらけ指ロ物ロ。3ロの者みしの
れ事が・ 、「をフち、「かをヤん」。2は「で」。たまは「ツ出が示「を、「
て『書控 ず外「、「さら觀」とな人「さ押少觀すお満クて出しジ斬余
いピい室 つし袖次らは客「かか「おらしし客」手面さ来て「エつつ
るエた と始か々な血「箱な両次な込引の伝のれたい自ステた
。口返 笑めらにるが驚にかサはるむつ一い笑るスるらチ「劍
は事 みる急悲笑流い剣剣イ一笑「か人のみ「夕状箱ヤ剣を
死に を。い鳴みれてをはド齊み「か「皆」。ツ態に「の観
ぬは 見でををて台押上かにを「りゆさん「フに入で切客
まで 出上見いかし手ら「見はつ「になる箱れに
笑つて てげせるら込く一「せあくり「よる「に味見
いる。 来るる「離む刺齊「る「あり「よろしく「箱剣をせ
て。 。 れる「さに「がと「がと「かを見「、
箱の と「ら剣「、箱「箱は「ら刺せ台
」 い箱「グに「グに「は厳「よ「よ「上